

手賀沼における外来水生植物本格駆除作業の船上見学

日時：2021年1月28日 10:15～12:40

参加者：千葉県立中央博物館 林紀男氏、千葉県水質保全課 小田上副主幹、美手連6名

船（我孫子手賀沼漁協小型船舶）の運航：古川船長（NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

※同時に、いであ株式会社が行政など関係機関と小型船舶で視察。ノダック株式会社（本格駆除受託業者）佐竹氏が作業船に同乗し、2隻の視察船の参加者とトランシーバーで質疑応答。

■ハイドロモグ 水草刈り取り船の仕様 等

- ・機種名：ハイドロモグ (HYDROMOG-SRX105) ノダック(株)製
- ・駆除方法：クラムレイキによる掴み上げによる回収
- ・移動可能水深：水深40cm以上
- ・駆除能力：約300～500 m²/日
- ・今回の本格駆除面積：約7,200 m²

※ノダック(株)作成 駆除対象エリア



■駆除手法の改善

試験駆除のときは、運搬船がネックになって、刈り取り船が休んでいる様子が多々あった。今回は、刈り取り船のハイドロモグは刈り取っては途切れなく運搬船に積み込んでいて無駄な時間がなかった。

- ・運搬船4隻（みずすまし号、小型船舶2隻、台船(押し船により航行)）がフル稼働。
- ・モッコの数を増やし、運搬船が栈橋到着時に空のモッコをクレーンで降ろし、そのクレーンに水草の入ったモッコを付け替え引き上げる。その直後、運搬船は現場に向かう。作業効率が上がった。



- ・ハイドロモグはクラムレイキで掴み取ったものを一旦脇に置き、次に掴み取ったものをその上に重ね、改めて全部を掴み取り、運搬船に近づいて行き、一度に満載となる量を積み込んでいた。みずすまし号や台船には2～3度積載し、大量にこなしていた。



- ・ごぼれた葉や茎の断片などは、運搬船の乗員がタモ網で掬いとる。
- ・ヨシ帯等の水際のナガエ、オオバナは、別途刈り取り作業完了後に潜水士などが人力にて回収。

